

平成 29 年度 自己評価結果公開シート

金塚幼稚園の教育目標

心身共に たくましく 気力のある子ども

- ① 健康に留意し、たくましい気力を養うと共に、常に注意深く物事を察知できるようになる
- ② 友達と親しく、又異年齢の子どもをいたわり、思いやるこころを持つ
- ③ 自然に興味を持ち、生き物を愛護し情緒の豊かな感性を表現できる
- ④ 人に頼らず、自分で何事も進んでやろうとする気持ちを持てる

今後重点的に取り組むべき評価項目

- ① 教員の能力・資質の向上
- ② 教育・保育内容の充実と再確認
- ③ 子育て支援、家庭支援の再構築
- ④ 支援教育の充実と推進
- ⑤ 地域性に基づく交流と子育て連携の再確認
- ⑥ 専門分野の知識力の向上
- ⑥ 危機管理意識と健康安全確保の為に体制作り
- ⑦ 園児と保護者・教職員の常の健康維持と体調管理
- ⑧ 食育の充実(自園調理に向けた研修項目)
- ⑨ 個人情報徹底管理と保全
- ⑩ 地域ネットワークを生かした、公共機関・自治体・医療機関との連携
- ⑪ 人的外部危機の観点からの園児保守
- ⑪ 園舎建て替え計画の立案と実施【平成 29 年度実施】
- ⑫ 建て替え中の子どもや保護者の安全確保
- ⑫ すべての前項目の改善を図るため、平成 30 年度には【幼保連携型認定こども園】への移行を控えており、保育内容・預かり保育の環境・0歳～2歳の認可・給食の提供等、教職員の研修や体制の取り組みに際して会議を重ねて準備を進める
- ⑬ 就業規則以下、教職員構成の再構築

評価項目の取り組み状況

- ① 教職員は園内外の研修に積極的に参加し、内容を全教職員と共有し、知識を深める努力をしている
- ② 特別支援の子どもたちの教育を推進し、保護者との共通理解を通して積極的に支援している
- ③ 園の教育育理念と方針について年度初めに話合いの場を持ち、共通理解と1年間の指導計画と目的の認識を深めている
- ④ 毎月の園だよりを(学年だより)をはじめとした情報発信を積極的に行い、必要に応じて個別懇談や教育相談の場を設け 親子・教師共に集団の学びの場として協力と支援の意識を高めている
- ⑤ 預かり保育を充実させ、至急の要望にも柔軟に対応できるよう体制を整えている。一時預かり事業も来年度には充実を試みる
- ⑥ 園児の健康安全に留意し、食育の観点からアレルギー対応に努める
- ⑦ 危機管理マニュアルを作成し事故・震災等の場合に備えて食糧・飲料水3か月分の備蓄をしている
常日頃より教員個々の危機管理意識を高めて緊急時の迅速な対応を心がけるようにしている
あらゆる緊急時を想定して、日頃の点検や訓練を充実させており、消防訓練などは、保護者参加を推奨している
- ⑧ 誕生会・園庭解放など 定期的に園を開放し、広く地域の親子とのコミュニケーションを図るようにしている
- ⑨ 園児や保育従事者共に体調管理に努め、園庭を利用して出来る最大限の体力づくりを心掛けている。
- ⑩ 専門知識を深めるために、積極的に研修会に参加し情報を共有している。
- ⑪ 認定こども園への移行を目指し、新園舎の建て替え継続中
- ⑫ 工事中の安全を第一に考え、計画実施を進める
- ⑬ 保育資質を保ち、地域の子育て支援の一環として現在併設している0歳～2歳未就園児クラス「わかば保育園」のノウハウも生かし、幼保連携型認定こども園への移行を決定した。食育の観点からも、給食も園内調理を始め、人的環境・物的環境など、あらゆる角度からの改善と新要素を策定する
- ⑭ 移行と子育て支援の位置づけから、それらを教職員が理解し、職員体制などの構築を行っている【就業規則】
- ⑮ 新体制のシステムを熟知し、

重点項目の自己評価

- ・新任教員は、経験者と共に動き経験を深める一方で、保育方法や得意面を活かす取り組みを現在模索しているようである。
- ・複数の教員と連携して物事を進める中で、個々の意図や段階をスムーズに読み取り、実践する努力をしていくことが課題である。
- ・先輩教諭は後輩教諭の指導に努め、専門知識の技術・指導力の向上と共に、教諭間のチームワーク作りを心がける。
- ・問題点を共有し、教職員同志の信頼関係の構築により一層努める。
- ・保護者との連携を常に見直しながら、園児の成長を見守る。
- ・瞬間的な出来事に対しての危機を察知する危機管理能力の向上と緊張が求められる。
- ・その場に有った環境構成や創意工夫を固定観念にとらわれて構成していないか、又新しい企画や試みを積極的に取り入れる柔軟な姿勢を持ち、それらに対しての第三者の助言や意見を発信しやすい関係作りの構築
- ・情報の発信・受信力を高め、情報を共有し 不透明な環境や状況が発生しないように心掛ける
- ・専門知識と経験を積み、常に向上心を忘れず子どもの育ちに寄り添う
- ・本園の教育目標から見えてくる子どもの育ての見通しを、教員全体で把握し、反省や改善点などを積極的に話し合う時間を積極的に持つ
- ・全園児の健康状態や発達段階・抱える問題点など、すべての教員が把握して、適切な指導が来ているか、又見直しができないか等の情報を共有し、教育推進に努める。
- ・日頃の取り組みや保育の見直し、保護者との関わりの中で、見落としが無いか、反省すべき点があるか、広い視野で物事を見つめる心と環境を整える
- ・乳児に対する知識を積極的に得て、子育て相談の場として機能が働いているかを考察する
- ・要支援児の受け入れについて、間口を広く保護者や園児に寄り添って共に育つ人的・物的環境を構築する。
- ・子育て支援の立場から保護者と向き合い、子どもの成長を援助していく体制を考察する
- ・教諭・保育士の医療行為についての最新の知識を持ち、いかなる状況においても全職員が冷静に対応出来る体制と心構えを持つ
- ・外部関係者や保護者からの要望について、早期解決が困難な場合は冷静に受け止め、解決できる体制を整える

学校関係者評価委員会の評価項目

- ① 園長の指導の下教育目標の周知を図り、組織として適切な運営とその責任体制を充実させる。
- ② 日常の安全管理と危機管理を徹底し、地域に密着した安全の保全と周知徹底を図る。
- ③ 医療機関・保健所との連携を密にし、健康安全に努める。
- ④ 学園を取り巻く地域環境の中で、関係者全員が情報の共有に努め、最善の方向で取り組みが行われるように努める。
- ⑤ 学園設立の理念と歴史・伝統を重んじながら外部の情報を常に取り込み、新しい理念との共存を図る。
- ⑥ 学園として安定した教育を発信していくための来年度の【幼保連携認定こども園】について、課題や問題点・改善点を把握する
- ⑦ 教諭・保育士 以外の専門知識を持った有識者の意見を多く求め、出来るだけ多くの情報を収集する
- ⑧ 園内で解決が困難な場合の外部との連携の構築

学校関係者評価委員会の評価

- ① 教育目標・事業内容・取り組み状況・財務状況改善において、総合的に努力されており、良好である
- ② 地元有志が立ち上げた学校法人でもあり、地域とのつながりを大切に深め教育機関としての機能をより一層活かされることが望ましい
- ③ 伝統や積み重ねてきた歴史を大切にすると共に、古い慣習にとらわれず近年のニーズを注視しながら新しい試みや保護者の立場に寄り添った環境作りも必要と思われる
- ④ 少子化対策に基づき、園の教育理念や活動の周知をさらに広め、【幼保連携認定こども園】としての保育教育方針を固めると共に、教職員の専門性も高めるのが肝要
- ⑤ 理事・評議員で経営面等の現在の状況情報を共有し、建替えに係る経費を算出し、学園経営を立て直す
- ⑥ 地域に根差した園であることから保育を必要とする家庭に広く門を開け、市町村や地域自治体とも連携しながら子育て支援施設としてのより一層の充実を図ることが肝要
「認定こども園」へ移行した際には特にそうあるべきである。
- ⑥ 医療機関とは、季節の行事やイベント等、緊急時以外でも交流を密に図っており、緊急時の対応も良好である

- ⑦ 地域や保護者間のニーズに対応出来るよう連携を保ち、職員間の連携も常に保ち、危機管理を持つ
- ⑧ 保育以外の専門知識を持った者も保育スタッフとして収集し、より一層安定した保育・教育の環境づくりを目指す
- ⑧ 教職員それぞれが、役割を把握しどのような状況に際しても、冷静な判断と決断力をもって物事に対応できることが望ましい